



2021年9月期第1四半期 決算説明資料

株式会社 EduLab
東証一部（証券コード 4427.T）

2021年2月5日

EduLab.

第1四半期決算概況	2
2021年9月期第1四半期実績	3
2021年9月期通期見通し	13
事業トピックス①	15
事業トピックス②	17
事業トピックス③	20

1. 2021年9月期1Q決算概況

- 売上高 1,741百万円（前年同期比 48.7%増）
- EBITDA 187百万円（同 1,529.2%増）
- 営業利益 △56百万円（前年同期は△141百万円）
- 経常利益 △173百万円（前年同期は△167百万円）
- 親会社株主に帰属する四半期純利益△137百万円（前年同期は△119百万円）
 - EPS △14.19円

3. 2021年9月期通期見通し

- 通期見通しは期初予想変更なし
 - 売上高 12,000百万円（前年比 45.4%増）
 - 営業利益 2,200百万円（同 17.7%増）
 - 経常利益 1,850百万円（同 15.3%増）
 - 親会社株主に帰属する当期純利益 1,250百万円（同 11.8%増）

2. 2021年9月期1Qの事業動向

- テスト等ライセンス事業は、企業・学校向けに「CASEC」の販売が引き続き順調に推移し増収（8.5%増）
- 教育プラットフォーム事業は、英ナビ！広告収入の増加、前期に買収したEDSのメディア・広告収入等が貢献し増収（21.9%増）
- テストセンター事業は、昨年6月のサービス開始以降、業績が順調に推移し大幅な増収（2,716.6%増）
- AI事業は、「DEEP READ」関連ソフトウェア利用に伴うライセンス収入が増加したものの、中国自習室事業譲渡の影響により売上は前年同期比でマイナス（13.4%減）
- テスト運営・受託事業は、全国学習・学力状況調査において、小学校・中学校の事業を受注。プロジェクトの開始時期の遅れや納入時期の変更等により売上は減少（29.6%減）。ただし、利益インパクトは限定的
- 人件費・減価償却費の増加に加え、営業外費用で東証一部への市場変更やオフリングに伴う一時費用、為替差損等により営業・経常・四半期純損失となった

2021年9月期 第1四半期実績

損益計算書

(単位：百万円)

	20年9月期 1Q	21年9月期 1Q	対前年同期比
売上高	1,171	1,741	+ 48.7%
EBITDA	11	187	+ 1,529.2%
EBITDA率	1.0%	10.7%	9.7pt
営業利益	△141	△56	-
営業利益率	-	-	-
経常利益	△167	△173	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△119	△137	-

- 売上高は、テスト等ライセンス事業、教育プラットフォーム事業、テストセンター事業で売上が順調に拡大し、**対前年同期比 48.7%増**となる**17.4億円**を達成
- 増収に伴い、**売上総利益は同 29.6%増**となる**5.6億円**、**EBITDAは同 1,529.2%増**となる**1.8億円**を計上
- 一方で、人件費の増加、減価償却費の増加等により、対前年同期比で損失幅は縮小したものの、**営業損失**となった。
費用の主な内訳は以下：
 - 人員増に伴う人件費の増加（74百万円増加）
 - ソフトウェア開発投資等に伴う減価償却費の増加（86百万円増加）
 - 中国自習室事業の譲渡に伴う一時的な市場調査費用・弁護士報酬等の発生（61百万円）
- 東証一部への市場変更費用、為替損失等の営業外費用の発生により**1.7億円の経常損失**、**1.3億円の四半期純損失**となった

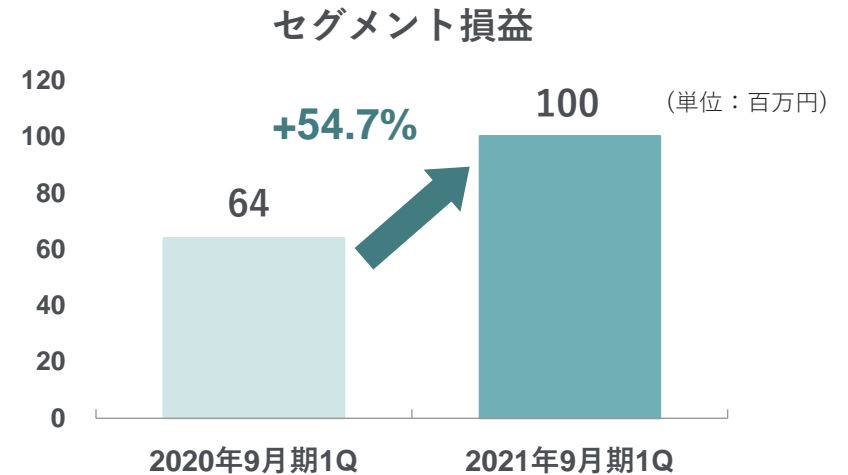
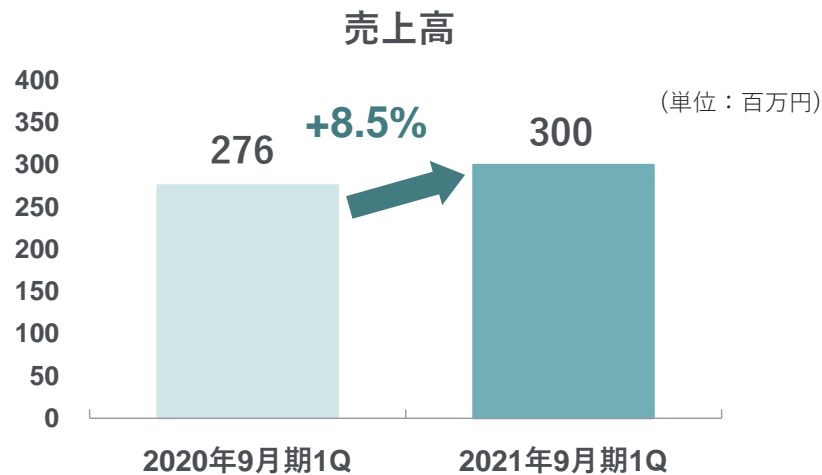
セグメント別の売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

事業セグメント	20年9月期 1Q	21年9月期 1Q	対前年同期比	
テスト等ライセンス	売上高	276	300	+8.5%
	セグメント損益	64	100	+54.7%
教育プラットフォーム	売上高	402	490	+21.9%
	セグメント損益	179	197	+9.7%
テストセンター	売上高	21	616	+2,716.6%
	セグメント損益	△30	75	—
AI	売上高	78	67	△13.4%
	セグメント損益	△9	△79	—
テスト運営・受託	売上高	407	287	△29.6%
	セグメント損益	△55	△20	—
全社費用	△289	△329	39百万円増加	

- オンラインで受験が完結する英語能力判定テスト「CASEC」の企業・学校向け販売は引き続き順調に推移（前年同期比 23百万円増）
- 一方で英検協会に提供している4-5級スピーキングテストに伴うライセンス収入が減少
- 上記の結果、**売上高は前年同期比 8.5%増となる300百万円、セグメント利益は同 54.7%増となる100百万円**となった
- 競合もオンライン商品の提供を始めているものの、「CASEC」の販売は引き続き順調に推移する見通し

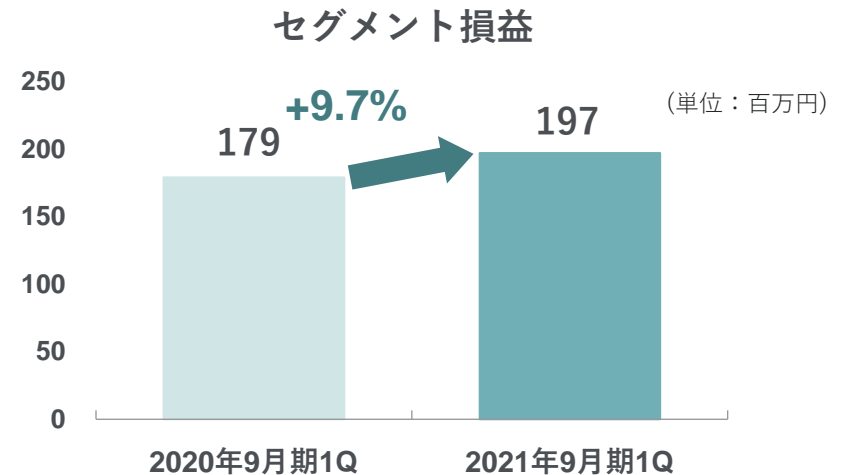
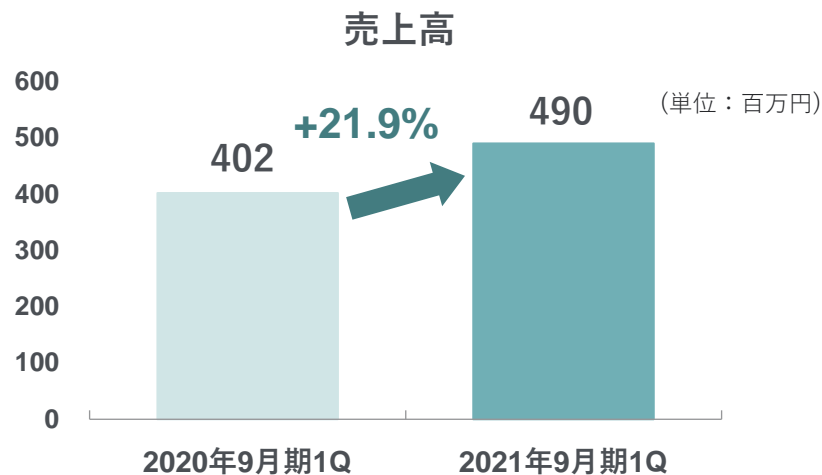
売上高・セグメント損益



設備投資額：37百万円

- 英ナビ！広告収入の増加、前期に買収したEDSのメディア・広告収入等が収益に貢献
- 一方で多教科プラットフォームの利用料収入が前年同期比で減少
- 上記の結果、**売上高は前年同期比 21.9%増**となる**490百万円**、**セグメント利益は同 9.7%増**となる**197百万円**となった
- 今期は英ナビ！広告収入に加え、2021年4月よりサービス開始を予定している学習プラットフォームに伴うライセンス収入が計上される見込み

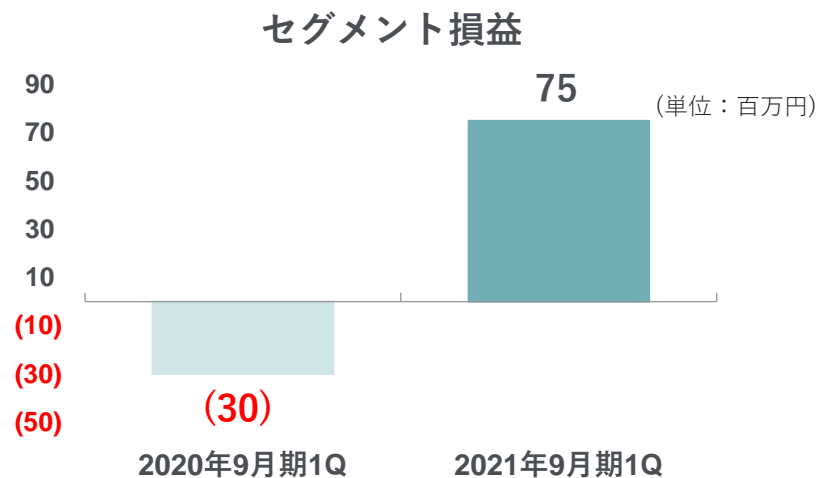
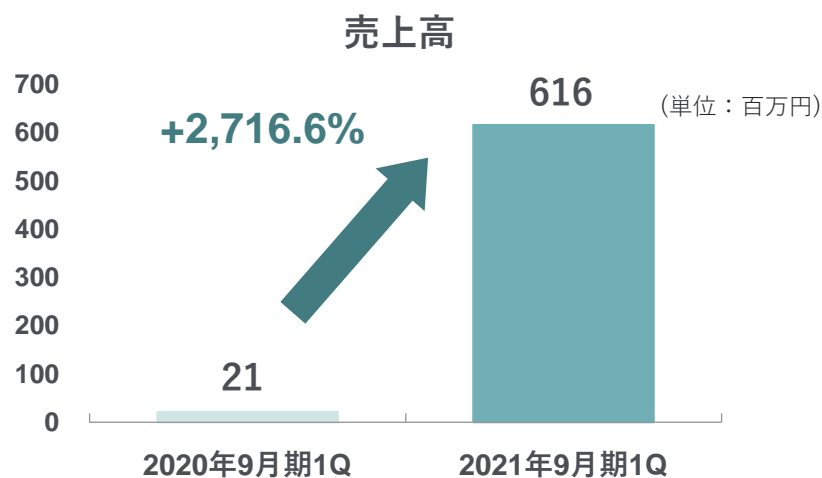
売上高・セグメント損益



設備投資額：107百万円

- 2020年6月のサービス開始以降、業績は順調に推移
- 売上高は前年同期比 **2,716.6%増**となる**616百万円**、セグメント利益は**75百万円**（前年同期はセグメント損失30百万円）となった
- 今期はCBT版の英検の受験者数の増加に加え、英検以外の資格・検定試験を取り込み、収益が拡大する見通し

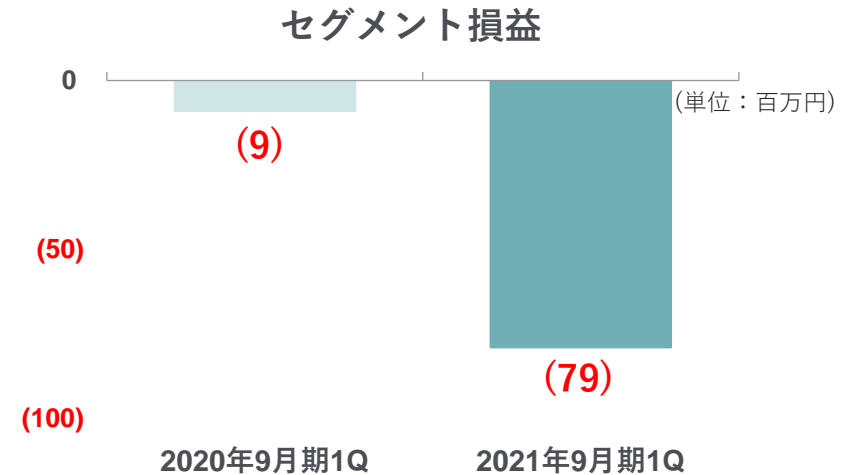
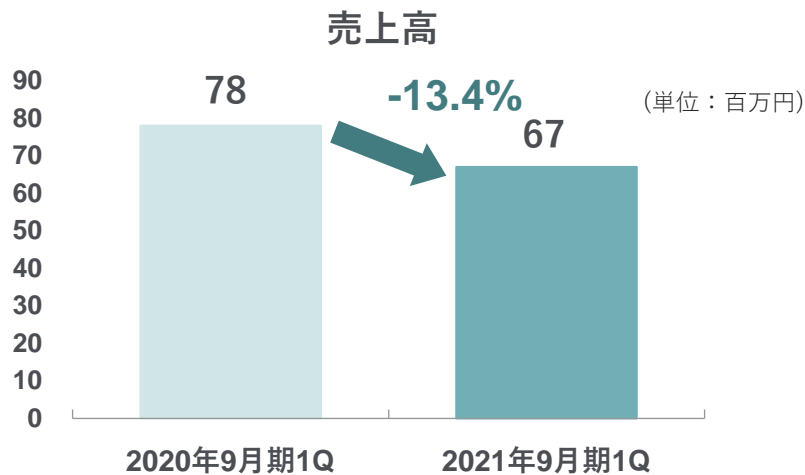
売上高・セグメント損益



設備投資額：207百万円

- AI-OCR「DEEP READ」関連のライセンス収入等が順調に増加
- 一方で中国自習室事業譲渡に伴うライセンス収入の減少、減価償却費の増加（21百万円増）、オンライン試験監督システム「CheckPointZ」関連先行費用の発生等が収益に影響
- 上記の結果、今期1Qについては一時的に減収・減益となり、**売上高は前年同期比 13.4% 減**となる**67百万円**、**セグメント損失は79百万円**（前年同期はセグメント損失9百万円）
- 今期はAI-OCR「DEEP READ」の新機能実装による売上の拡大に加え、2020年6月よりサービス提供を開始したオンライン試験監督システム「CheckPointZ」が2Qより売上貢献を開始する予定で当初見込み通り推移

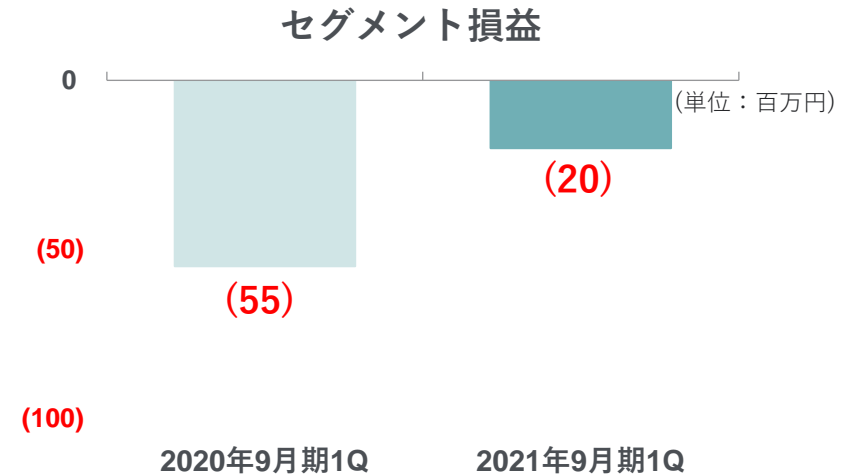
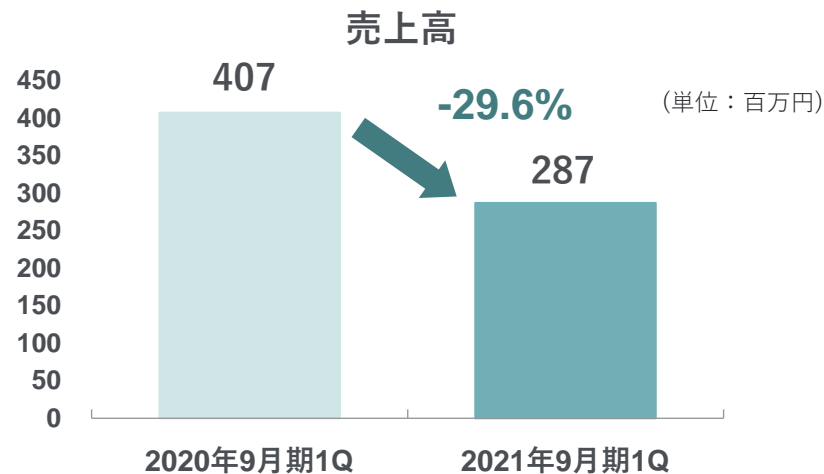
売上高・セグメント損益



設備投資額：367百万円

- 埼玉県学力・学習状況調査をはじめとしたプロジェクトの開始時期の遅れ及び納入時期の変更等により、今期1Qは前年同期比で売上高が減少
- **売上高**は前年同期比**29.6%減**となる**287百万円**、**セグメント損失**は**20百万円**（前年同期はセグメント損失55百万円）となった
- 令和3年度全国学力・学習状況調査において小学校・中学校事業の受注が決定した他、埼玉県の学力・学習状況調査案件に参加する他自治体が増加しており、通期の増収見込みは変更なし

売上高・セグメント損益



設備投資額：17百万円

営業外損益

(単位：百万円)

	20年9月期 1Q	21年9月期 1Q	対前年増減額
営業外収益	26	4	△ 22
為替差益	25	—	△ 25
その他	0.6	4	+ 3
営業外費用	53	120	△ 67
支払利息	8	10	△ 2
為替差損	—	20	△ 20
投資事業 組合管理費	30	33	△ 3
持分法によ る投資損失	—	2	△ 2
市場変更 費用	—	44	△ 44
その他	13	8	+ 5

■ 1Q中の主な変動は、為替変動による為替差損益や、市場変更費用など

- 為替差損益は前年同期に25百万円の為替差益を計上したが、今期1Qは円高基調のため20百万円の為替差損となった
- 2020年10月に行った東京証券取引所市場第一部への市場変更に伴う関連費用として、今期1Qは44百万円を計上

(単位：百万円)

	2020年 9月末	2020年 12月末	増減額
流動資産	10,600	14,075	+ 3,475
現預金	7,508	11,545	+ 4,037
その他	3,092	2,529	△ 562
固定資産	5,663	6,436	+ 773
ソフトウェア	2,758	3,274	+ 515
投資有価証券	1,064	1,090	+ 26
その他	1,840	2,072	+ 231
繰延資産	8	7	△ 0
資産 合計	16,272	20,520	+ 4,247
流動負債	3,782	2,646	△1,136
有利子負債	2,262	1,632	△ 630
その他	1,520	1,014	△ 506
固定負債	4,464	4,589	+ 124
有利子負債	4,327	4,482	+ 154
その他	136	106	△ 30
負債 計	8,247	7,236	△1,011
純資産 計	8,024	13,284	+ 5,259
負債純資産 合計	16,272	20,520	+ 4,247

- 流動資産は前年度末より**3,475**百万円増加。公募および第三者割当増資による新株式の発行などに伴う現預金**4,037**百万円の増加、前払費用**339**百万円の増加、売掛金**946**百万円の減少等
- 固定資産は**773**百万円増加。英検協会からのCBT資産買取りなどによるソフトウェア**515**百万円増、長期前払費用等の増加によりその他**231**百万円増
- 有利子負債合計は**475**百万円減少
- 開発投資等Capexは**739**百万円（2021年9月期1Q実績）

2021年9月期 通期見通し

2021年9月期1Q P&L（累計）と通期予想に対する進捗

- 1Qについては期初予想どおり推移しており、引き続き**2Qでは全体で売上高45.5億円の達成を予想**
- **通期業績予想については変更なし**

(単位：百万円)

	21年9月期 1Q (実)	21年9月期2Q (予)	21年9月期通期 (予)
売上高	1,741	4,550	12,000
営業利益	△ 56	140	2,200
営業利益率	—	3.1%	18.3%
経常利益	△ 173	40	1,850
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 119	20	1,250

(単位：百万円)

事業セグメント	21年9月期1Q (実)	21年9月期通期 (予)	進捗率	
テスト等ライセンス事業	売上高	300	1,390	21.6%
	セグメント損益	100	520	19.3%
教育プラットフォーム事業	売上高	490	3,070	16.0%
	セグメント損益	197	1,230	16.0%
テストセンター事業	売上高	616	3,050	20.2%
	セグメント損益	75	590	12.8%
AI事業	売上高	67	1,330	5.1%
	セグメント損益	△79	720	—
テスト運営・受託事業	売上高	287	3,330	8.6%
	セグメント損益	△20	420	—

事業トピックス①

テストセンター事業

入試にも利用可能な高セキュリティのテストセンターを全国で展開
直営会場の拠点数は43拠点となり、国内No.1のテストセンター事業者へ

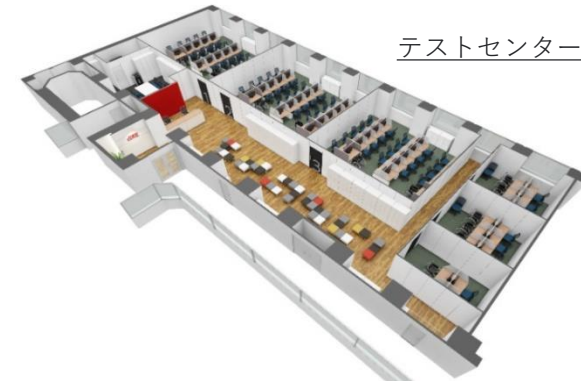
国内No.1の直営拠点数

入試活用可能な高セキュリティの
テストセンター

2020年12月時点
直営会場
28都道府県
43拠点

委託会場
全国116エリア
200拠点以上

2020年度当初計画
直営会場
1~3拠点



テストセンター施設内イメージ図

■ 平日受験が可能に

- CBT型の英検について、従来までの毎週土日実施に加えて、平日の試験実施を開始
- 受験者の利便性・キャパシティ確保に寄与

■ 英検以外に、複数の検定試験を実施

- 2021年2月現在の実施実績および予定試験
 - 整形外科専門医認定試験 (1/22実施)
 - 広島観啓大学 (2/16実施予定)
- テストセンター利用者数は、2020年12月末までに累計20万人超

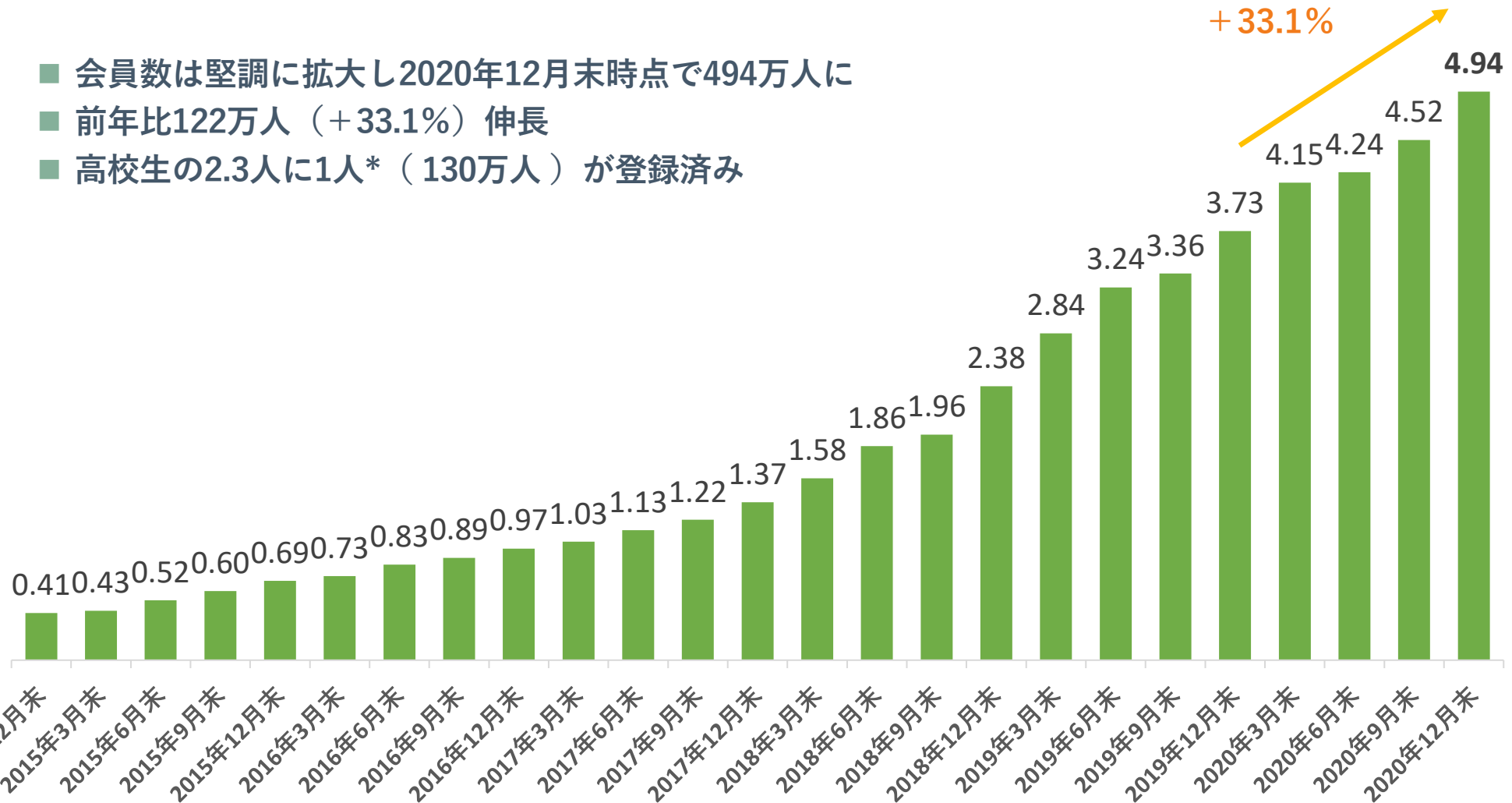
事業トピックス②

教育プラットフォーム事業

教育プラットフォームの基盤となる英ナビの会員数は堅調に拡大し、
2020年12月末時点で490万人以上
高校生の占める割合が高く、高校生の約半数が登録

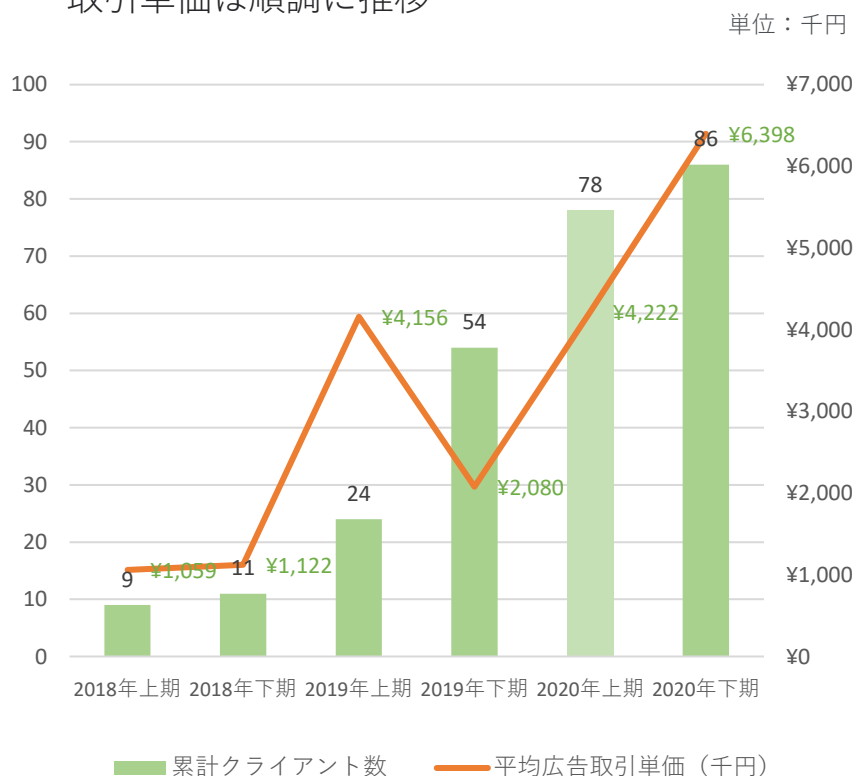
百万人

- 会員数は堅調に拡大し2020年12月末時点で494万人に
- 前年比122万人（+33.1%）伸長
- 高校生の2.3人に1人*（130万人）が登録済み



累計クライアント数と広告平均取引単価

- 地域、年齢、性別など、メディア属性情報の信頼度の高さが評価され、塾／予備校、通信教育、大学を中心にクライアント数が増加
- 前期下期は新型コロナウイルス感染症拡大を背景に新規クライアント数の伸びは限定的となったが、取引単価は順調に推移



事業の進捗

通える塾の簡単見学予約サイト「塾ピタ」

- 「英ナビ！」会員データベースを活用した、塾と学生をマッチングする予約サービス
- 収益モデル：学生が塾の情報を取得したのち、塾の見学予約が成立した時点で費用が発生する、成功報酬モデル
- 2021年1月時点で**約4,600教室**と提携済み



事業トピックス③

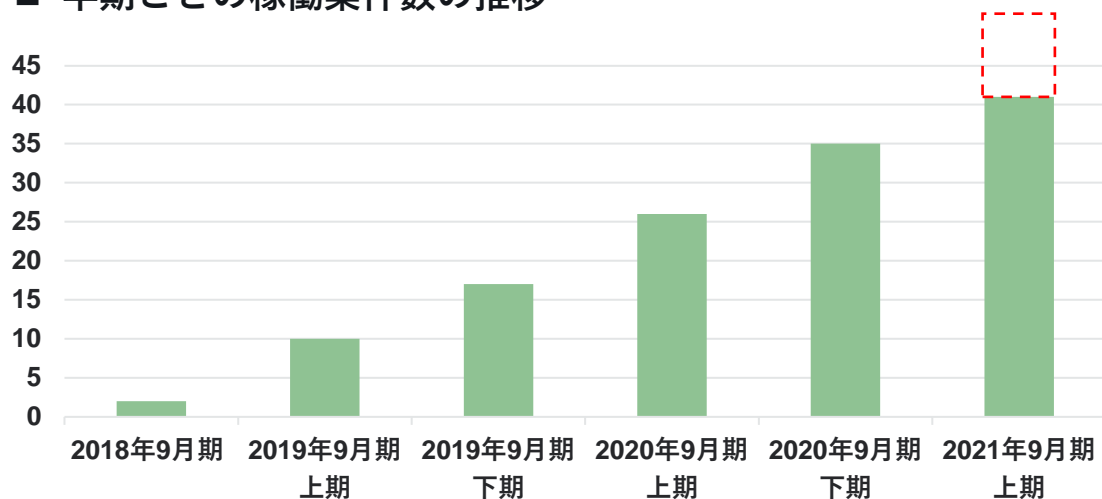
AI事業

12月に大幅なバージョンアップが完了、
リリース以降、問い合わせ数が増加。2Q～3Qにかけ、さらに稼働案件の増加を見込む

■ 延べ案件数の推移

		2018年9月期	2019年9月期	2020年度9月期	2021年9月期 (1Qまで)
有償案件数	本格稼働案件数 (ランニングで売上)	2	17	35	41
	トライアル・カスタマイズ等案件数 (スポットで売上)	6	24	47	49
無償案件数	トライアル実施数	44	94	185	205

■ 半期ごとの稼働案件数の推移



バージョンアップ後、2Qから3Qにかけ、
代理店や他社サービスとの連携を拡大予定

「DEEP READ」 ver.2をリリース、ライセンス売上の急速な拡大を目指す

■ 概要

バージョンアップでは主に**精度面・機能面・サポート面**の拡充を図り、より使いやすく、より大幅な業務の効率化を実現。企業・組織におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）推進をサポート。

■ バージョンアップのポイント

● 精度面の拡充

- 読み取り精度のさらなる向上
- はみ出し文字や取り消し線・書き損じも判断可能に
- 日本語の氏名のふりがなや、多言語対応を強化

● 機能面の拡充

- 帳票テンプレートの自動分類機能を追加
- 枠線の自動読み取り機能を追加
- 非定型帳票の認識機能をサービス実装

● サポート面の拡充

- 導入スピードを短縮。
クラウド版・API提供は最短翌日、
無償トライアル利用は、即日対応可能

DEEPPREAD が待望のバージョンアップ

精度

読み取り精度が大幅に向上
書き損じも判断可能

*多言語に対応

サポート

クラウド版やAPI提供は
最短翌日から利用可能
無料トライアルは即日対応可能

機能

非定型帳票にも対応
テンプレートの自動分類機能を追加

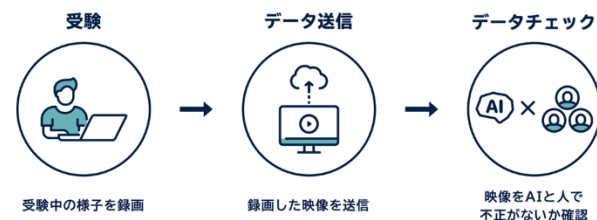


元画像	読み取り結果
	愛媛県松山市西石井
	1140003
	東京都渋谷区道玄坂1-21-1 渋谷ソラスタ14階
	カイザワ

セキュアな在宅受験を可能にする、オンライン試験監督システム
多数の試験実施団体、大学での導入がはじまる

■ 概要

試験実施中の受験者の様子やPCの操作ログ等を全て記録し、AIと人によりそれらをチェックすることで、テスト受験者の受験中の様子を厳密に確認することが可能となる、オンライン・プロクタリングシステム



■ 具体案件例

- 大正大学、日本経済大学の他、複数の大学の入学試験で今年度中の導入の決定および検討が進む
 - 実施済み：3大学
 - 導入決定：5大学
 - 導入準備：5大学
 - ※導入の準備のみ進めており、状況を鑑みて直前に活用を判断する予定の大学
- オンライン試験監督システムを実装した「CASEC」の活用が進む
 - 4大学、5,500名を対象に、プロクタリング機能を搭載した試験を実施

■ 大手メディアによる掲載実績例

掲載日	掲載メディア
2020年11月23日	日経BP社『日経ビジネス』
2020年12月8日	日本テレビ『スッキリ』
2021年1月15日	フジテレビ『めざましテレビ』
2021年1月15日	九州朝日放送『アサデス。』
2021年1月23日	共同通信
2021年1月31日	読売新聞
2021年2月1日	毎日新聞

- 本資料は、株式会社**EduLab**の業績等について、株式会社**EduLab**による現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- 株式会社**EduLab**の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来展望に関する表明は、本資料開示時点（2021年2月5日現在）において利用可能な情報に基づいて株式会社**EduLab**によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。